

【国語科】

1 今年度の目標

主体性や考える力を育てることを目指し、授業改善に取り組む。

2 アンケート結果

- ・授業に対する興味関心は多くの者が持っている。授業内容が「分からない」「難しい」という生徒は、1年時の「古典」教材では多いが、学年が上がるにつれ少なくなっており、「訳を理解したい」という前向きな意見もある。
- ・予習復習は「あまりしていない」「していない」が60%～80%いる。一方「努力に応じた結果は出ている」と答える生徒が大半であるが、「努力不足」と答えた生徒も30%いる。
- ・自分の学習に対する反省として「漢字を覚えたい」「ワークを丁寧にする」が多いが、それ以外に「もっとたくさん本を読みたい」「文章を読み慣れていきたい」などもあった。また、「どうしたら点数が上がるか」「現代文の勉強はどのようなことをすればよいか」と質問されることもある。
- ・板書の量が多く「字を大きくしてほしい」「余裕を持って授業を終わってほしい」という意見があった。

3 今後の取り組み

- ・家庭学習の習慣をつけさせる。そのために、関心の度合いや能力に応じた家庭学習のやり方を、授業内で示していく。
- ・漢字やワーク提出だけでない読書や文章表現につながる課題を示す。
- ・目標達成のための授業改善を共有できるよう、話し合う機会を学期に2回ずつは持つ。

【地歴・公民科】

1 アンケート結果から

授業に対して、ほとんどの生徒が、興味・関心を持って取り組めており、内容も、分かりやすい、分かっている、と感じている者が多数であった。一部難しい・授業の進度が速いと回答した者もいたが、大部分の生徒は難易度・進度ともにちょうどよいと感じており、教材等も生徒たちにとって興味のもてるもの、分かりやすいもの、に工夫されているので、現状の授業に関しては「今のままでよい」と回答した者が、大多数だった。

2 今年度の目標

社会常識・社会事象を自主的に知ろうとする習慣を身につけさせる。社会の動きについて自分なりに考えたり、考えを文章化したりする姿勢を育ませる。

3 具体的な取り組み

新聞やテレビのニュース番組等を積極的かつ分かりやすく授業で取り上げ、生徒の興味関心を高めるとともに、考查問題等にも反映させることで社会常識・社会事象に関する知識の定着を図る。また調べる・考える・表現するということに挑戦させ、生徒の問題意識の深化をめざす。

4 これまでの成果と課題

グループ作業を通して考えを深めさせたり、冒頭に授業のQを設定して何を考えるかを明確化したりと、生徒が自ら調べたり考えたりできるよう工夫している。また時事問題や気になるニュース等を授業でとり上げたり、新聞等のコピーを教材化したりしている。視聴覚教材を授業中視聴させている科目も多いが、見せて終わりではなく、必ずメモや感想を書かせ、生徒たちなりの考えをまとめさせるようにしており、評価の対象ともしている。そしてこれらの学習活動は、定期考查問題にも反映させるよう工夫してお

り、その場限りの活動にならないよう配慮している。このような取り組みを通し、生徒たちは、知識の獲得にとどまらず、自らの得たものを踏まえ、これからどう行動すべきか、自分の人生をどうしていくかを考え始めるようになりつつある。今後さらに授業内容と時事問題等をどのように関連づけていくか、その展開方法等に創意工夫を重ねていくとともに、自ら問題を設定し、考え、表現するというところへ生徒を進ませるための取り組みを考えていきたい。

【数学科】

1 生徒の状況

- ・ 予習、復習については、「いつもしている」「時々している」と答えた生徒の割合は、それぞれ、8%（文理19%）、16%（文理20%）であった。
- ・ 教員の実感には「落ち着いた授業態度で、学習内容を理解しようという意欲のある生徒が多い」、「前時までの学習内容の定着が不十分」、「知識を関連付けて考えたり、試行錯誤しながら根気強く取り組んだりすることが苦手」「なんとなく分かったというレベルで留まっている生徒が多い」等がある。

2 取組と成果

- ・ 「前時までの学習内容の定着が不十分」であるという課題に対しては、担当教員毎の指導方法で、小テストや確認・課題プリントを実施した。その結果、小テストに向けて授業前にノートを開いている姿が見られるようになった。また、課題プリントで復習に取り組む生徒が増えたことで、「きちんと復習すれば分かるようになった」という声も聞こえてくるようになり、前時の学習内容の理解に基づいて授業を展開できるようになってきたクラスもある。
- ・ 「知識を関連付けて考えたり、試行錯誤しながら根気強く考えたりすることが苦手」であるという課題に対しては、授業時間内に、適切に問題演習の時間を確保し、生徒に、問題を解ききることで達成感を持たせると共に、自ら考える姿勢を身につけさせようと考えた。さらに、できるだけ思考をつなげていけるように、演習中にヒントを出すなど自ら考えるきっかけを与えた。「やってみるとできた」という単純な喜びが、学習意欲の向上につながった生徒も見られた。
- ・ 1年生では、教科書や傍用問題集の問題だけでなく、参考書（チャート）の問題まで解くように指示しているクラスもあり、定期考査前に積極的に取り組んでいる生徒も見られる。

3 今後の課題

- ① 学習意欲を高め、生徒が主体的に授業に取り組めるようにさせる。
- ② 予習・復習等の家庭学習の習慣を身につけさせ、基本的な学力の向上を図る。

4 課題解決のための取り組み

- ① 「分かる楽しさ」が実感できるような、分かりやすい授業をする。
 - ・ 内容を精選して教える。
 - ・ 少数・習熟度別授業のよさを活かし、机間巡視を大切にして、個別の質問に丁寧に応えると共に、生徒のつまずきを見つけて、全体の理解につなげる。
 - ・ 授業プリントを準備したり、ノートの取り方を指導したりすることにより、生徒の学習活動を活発にするとともに、生徒の理解を深める。
 - ・ 「発問」を工夫して、「発問」と生徒の「回答」をもとに授業を展開し、生徒の集中力を高める。
 - ・ 導入として、前時までの「基礎・基本事項の確認」や「公式の確認」等を行いこれまでの授業内容の理解の上に立って、授業を展開する。
 - ・ 説明に終始するのではなく、問題演習の時間を確保して、生徒に「できた」という達成感を与える。

②基本的な知識の積み重ねを図る。

- ・ 小単元毎に確認テストや小テストで学習内容の定着を図る。
- ・ 学力を定着させるために、宿題を定期的に出して、その提出も評価する。
- ・ 授業の中で「基礎・基本事項」や「公式」を繰り返し確認することにより学習内容の定着を図る。
- ・ 断片的な知識だけに終わらせず一連の流れの中で重要な項目を確認し全体的な構成を考えさせる。
- ・ 意欲の高い生徒に対しては個別指導を行う。

【理科】

1 現状

・ 授業に対する興味が「ある」「かなりある」という生徒が、66%、授業の内容が「よく分かる」「分かる」という生徒が71%いる。

- ・ 授業の復習をしている生徒は少なく、「あまりしていない」「していない」という生徒が大半(78%)を占めている。
- ・ 自分の学習と成績については、56%の生徒が「努力した結果よい成績を収めている」「努力に応じた結果が出ている」と答えている。「努力しているが結果に表れない」生徒が15%、「努力不足のため成績が不振である」生徒が27%程度いる。
- ・ 34%の生徒が授業内容について「難しい」と答えており、授業進度が「進み方が早い」と答えた生徒が1割いる。
- ・ 授業に対する工夫は、「いつもされている」「時々されている」と答えた生徒は95%いる。
- ・ 授業に対する要望では、「今のままでよい」と答えた生徒は8割である。「もっとゆっくり進んでほしい」「もっと丁寧に説明して欲しい」と答えた生徒がともに15%程度いる。

2 改善点

- ・ 興味がない、授業があまり分からないと答えている生徒は1、2年生に多い。1年生は中学校の授業内容に比べて、より専門的で複雑になったことで、苦手意識から自主学習の定着につながっていない様子である。実験などを取り入れ、理科に関する興味や関心を持たせ、生徒の理解力に応じて、教科書の内容を精選するなど分かる楽しさを実感できるように工夫していきたい。2年生も、複雑な計算を必要とする「物理基礎」を全員履修しているため、理解力に差があり、授業に興味を持たず、わからない、むずかしいと感じている生徒がいると思われる。実験を行うとともに、問題を精選して、易しい問題なども入れながら解ける楽しさを分からせていきたい。
- ・ 理科は復習をすることで、授業内容の定着が図られる。復習をしていない者が多いので、さらに、単元ごとに小テストを実施するなど工夫して、復習を促せたい。また、家庭学習を十分にしていない生徒が多いことも問題点であり、宿題を課すなど、家庭学習にもつなげていきたい。
- ・ 理解力に差があり、問題演習の時も、できる時間に差がある。問題の程度をいろいろ組み合わせるなどして、机間巡視を行い、丁寧に説明して欲しい生徒に対応していく。
- ・ 生徒のモチベーションが低く、ある程度理解している生徒でも、授業を受身で聞いている生徒が多い。生徒同士で議論させたり、意見交換をするなど、授業の工夫をすることで、積極的な授業の取り組みを目指したい。

【保健体育科】

「体育」

- ・授業の「内容」「進度」「工夫」に関しては、ほとんどの生徒が現状に満足している。
- ・「体づくり運動」に関しては、学年により「楽しい」「やや楽しい」と感じたことに差が生じている。実施時期や方法をさらに検討し、意欲の向上を図りたい。

「保健」

- ・授業「内容」「進度」「工夫」に関して、大半の生徒が「ちょうど良い」「工夫されている」と捉えており、現状に満足している。
- ・ほとんどの生徒が授業に対する「興味」を持っており「内容」も分かっている。「興味・関心」が高いので、学習ノートや視聴覚教材やDVD等の積極的活用等の工夫を図り、生徒の理解を深めたい。

「選択体育Ⅰ、選択体育Ⅱ」

- ・授業の「内容」「進度」「工夫」に関しては、ほとんどの生徒が現状に満足している。「知識・技能」を高めるにはどうしていきべきか、授業形態も含め、より良い指導法とは何か模索していく。
- ・生徒自ら安心・安全に留意して活動ができるよう、安全に対する意識の徹底を図る。

【芸術：音楽・美術・書道】

1 生徒の現状と課題

(音楽)

- ・授業への興味・関心は高く、積極的に取り組んでいる生徒が多い。
- ・内容が難しいと感じる生徒が数名いる。また、進度も早いというものが数名いた。

(美術)

- ・この授業に関心がある、自分から積極的に参加していると回答した生徒が多く、実際意欲的に取り組んでいる生徒が多い。
- ・作品の進み方に対し、授業は「わかりやすい」との意見が多いが、作業スピードに関しては「もう少し急いで作品をつくる」といった生徒が多い。

(書道)

- ・授業の内容、速度について「ちょうどよい」と答えた生徒が多く、「もっと上手になりたい。」という前向きな感想が多数あった。
- ・技術面だけでなく、「集中して授業に取り組む」という精神面を課題にしている生徒もいた。

2. 改善策

(音楽)

- ・内容について、板書等を用いて、わかりやすく、ていねいな説明を心がける。また、器楽では、全体指導だけでなく、一人一人チェックする時間を取っていく。
- ・進度については、個々に経験が異なるので、それぞれにあった課題が選択できるようにする。

(美術)

- ・授業の残り時間を具体的に周知することで、今日（本時）何をすべきかを意識させている。
- ・作品は丁寧に扱わせる。自分の作品やクラスメートの作品を大切にできる環境を整え、作品の重要性を教える。

(書道)

- ・授業に対する要望としてほとんどの生徒が「今のままでよい」と回答しているが「進み方が遅い」と回答している者もいた。作業が遅れがちな生徒への個別指導を改善し、全体の進行を遅らせないような工夫を考えたい。
- ・技術だけでなく集中力を身につかせるために、緊張感を持って制作に取り組むような機会を増やしたい。

【英語科】

1 生徒の状況

◎ 1年生

7割の生徒が興味を持って授業に取り組んでいる。内容・進度は丁度よいと考えている生徒が大半である。ALTとの授業は楽しんでゲームなどの活動に参加しているが、指示や説明の英語が分かりにくいと考える生徒もいる。

◎ 2年生

コミュニケーション英語Ⅱについては、半数近い生徒が「興味がない」「あまりない」と答えている。学習内容や進度は丁度よいと考えているものが多い。「努力に応じた結果が出ている」「努力不足のため成績不振である」の回答に二分されており、予習復習はしていないということで、努力していないからこの程度の成績、と考えている生徒が多いと思われる。

英語表現Ⅱについては「難しい」と考える生徒の割合が例年より増えている。予習復習はできていない。テストの結果については努力不足と感じている生徒が多く、もっと家庭学習時間を増やしたいと考えている生徒が多い。

◎ 3年生

コミュニケーション英語Ⅲについては興味を持って取り組み、内容はわかるという生徒が7割程度である。予習復習をする生徒は3割で、努力不足、努力に応じた成果を感じている。

英語表現Ⅱについては、おおむね興味を持っているが、授業内容を「あまり分からない」と答える生徒が半数近くいる。

異文化理解、英語会話など、選択科目については非常に高い興味を持ち、内容に対する理解・満足度も高い。

2 問題点

- (1) 生徒の英語力、興味・関心の度合いに差が大きい。
- (2) 興味が「あまりない」「ない」とした生徒が各クラス3割程度いる。
- (3) 家庭学習が行われていない生徒が多数である。
- (4) 能力は高いが英語を使った活動に消極的なクラスと、活動には積極的だが能力の低い生徒の多いクラスがある。

3 学力向上に向けて

- (1) ペアワークを通し、相手に伝え、伝わる喜びを体験させることにより学習意欲の工場を図る
- (2) 音読などの繰り返しの練習を徹底し、単語、文の定着を図る
- (3) 小テストの実施（授業中）
- (4) 進学課外の実施の方法の工夫（進路希望・難易度別の夏季課外実施）
- (5) 入試や英検に向けての個人指導、面接練習、添削の実施

【家庭科】

1 生徒の現状と課題

- ・実際に体験する授業への関心が高く、積極的に取り組んでいる生徒が多い。
- ・授業で学習した内容を実生活で活かしている生徒が少ないため、授業内容をいかに自分のものとし、定着させていくかが課題となっている。
- ・学年が上がるにつれ、授業内容に興味関心を持ち、目的意識を持って授業に参加できており、もっと努力したいと考える生徒が増えている。

2 課題を解決するための方策

- 講義形式の授業において五感に訴える資料等を準備し、より実感のわく授業を心がける。
- 小テストを実施し、学習の定着を図る。
- 授業内容を実生活に活かす具体的方法を提示し、生徒の気づきを促す。
- できあがった作品を友だち同士で相互評価したり、展示したりする等、評価してもらえる場を増やし、達成感を味わえるよう工夫する。

【商業・情報科】

1 生徒の現状と課題

【アンケートより】

- ・情報処理教室を利用する情報系の科目では、興味・関心を持って実習に取り組んでいる。教室における座学中心の科目においては集中力を欠く生徒も見受けられる。⇒ 演習のやり方
- ・家庭学習(予習・復習)については、多くの生徒が不足している現状がある。⇒ 授業で勝負
- ・授業に対する要望は「今のままでよい」と答える生徒が多数派であるが、「もっと質問の時間を取ってほしい、考える時間を取ってほしい。」という意見もある。⇒ アクティブ・ラーニング

【教員より】

- ・就職に対しての意識の高い生徒は積極的に、検定習得にも取り組んでいるが、目的意識のない情報実務コースの生徒は、学習意欲も低く、検定も習得できていない。⇒ コース選択説明
- ・コンピュータを活用した授業(特に1年の全員履修)では、得意としている生徒と不得意の生徒の情報リテラシー格差が大きいため、同時並行実技の難しさを感じている。⇒ 発表の準備

2 目標・改善点

- ・簿記や電卓の検定取得に向けて、基本的な計算や記帳方法を確実に押さえるとともに、演習問題・模擬問題を繰り返し、繰り返し、粘り強く解かせていく姿勢を身につけさせること。
- ・地域連携の授業をもっと増やしていきたい。SNSやスマートフォンの活用についても、授業の中で積極的に、効果的に取り入れていく必要性が出てきていることを痛感している。
- ・検定前の課外や補習などを実施し、検定の合格率を上げたい。部活動との関係を考えたい。
- ・「社会と情報」(1年次)の授業時から粘り強く計測・文書作成練習を続けていくことで、ビジネス文書実務検定の上位級合格者(受験者)をさらに増やしていきたい。
- ・コミュニケーション能力を高めていくうえでの、プレゼンテーションの授業を増やしていきたい。自ら自分を売り込んでいくことが社会からも求められている。これからの時代は起業家としての生きる道や働き方についてもしっかりと考えさせたい